令和6年度「杉並区中学生小笠原自然体験交流事業」の実施報告について

令和6年度の杉並区中学生小笠原自然体験交流事業について、実施報告する。

1 目的

- 世界自然遺産である小笠原の貴重な自然体験や自然に育まれた文化を通して、子どもたちの豊かな人間性を育む。
- 自然体験を通じ、各学校・地域における環境保全活動の推進役となる世界的視野で持続可能な社会を考えることができる生徒を育成する。

2 実施期間

令和7年3月19日（水）～3月24日（月）【5泊6日（内船中泊2日）】

3 派遣者

- 区内在住中学生22名（区立中学校生徒19名 私立等中学校生徒3名）
 - ・ 応募総数44名（区立中学校36名、私立等中学校8名）
 - ・ 1次審査 応募作文による書類審査
 - ・ 2次審査 個人面接及びグループ面接
- 引率者等7名（教育委員1名、区立中学校教員1名、済美教育センター統括指導主事1名、指導主事2名、主事1名、民間派遣看護師1名）

4 主な内容

- 小笠原についての興味・関心を高め、知識・理解を深めるための事前学習会（3回）
- 現地における自然体験（星空観察、シュノーケリング、ホエールウォッチング、父島ネイチャーガイド）
- 現地の方々との交流（南洋踊り、フラダンス、ビーチクリーン講習）
- 各自及びグループで設定した課題の追究（施設見学、インタビュー、文献調査等）
課題例：海のプラスチックごみ、観光業と環境保護、生態系保護のための取組
固有種の保全活動、外来種による影響と対策 等

5 今後の取組

- 事後学習会（令和7年4月～7月に3回実施）において、各自が設定した課題に対する学習内容や成果についてまとめる。
- 成果報告会（令和7年7月12日（土））において、学習内容や成果を発表する。
- 学校や地域の環境保全活動に積極的に関わり、成果を還元していく。